

孫宝排水機場の変遷と宝川排水状況

宝川水系の排水の変遷は、明治32年「孫宝悪水普通水利組合」(現 孫宝排水土地改良区)と称して排水を行っていましたが、たびたび水害を重ねていました。

この状況を打破した郷土の英雄が東條町の青樹英二氏です。

氏は、飛島新田開拓、津島銀行設立、尾西鉄道(現 名鉄尾西線)を設立するなど多彩な功績があり、とりわけ明治38年に日本で最初の蒸気機関を利用した孫宝排水機場を設置したのが、排水事業の中でも大きな功績です。イギリスから輸入した蒸気機関3台がうなりを上げて伊勢湾に向け水を吐き出し全国に例をみない排水機場が完成し、宝川水系の排水事業に多大な貢献をされました。

現在の宝川水系の排水地域は、筏川の東側と善太川の西側の区域で面積約2,103haで、その内愛西市の面積は、西保町・東保町・本部田町など約635haあります。この地域は、海拔0m以下のため、自然に海へ流れることはありません。地域の排水の全てを機械排水に頼っています。このため、弥富市に孫宝排水機場が設置され、年中排水ポンプを運転しています。

大正初期大量の水を吐き出す排水管



孫宝排水機場の全景



平成29年度孫宝排水機場の排水状況

平成29年度運転状況と経費(平成29年4月～平成30年3月)				
排水機場名	排水ポンプ	運転日数	運転時間数	排水費計(千円)
新孫宝	2400mm 900kw2台	162日	572時間	20,286
孫宝第2	2000mm 630kw2台	172日	674時間	11,180
合計		334日	1,246時間	31,466

ごみ処理に多大な経費がかかっています。水路へごみを捨てることはやめましょう。